

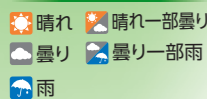
# アナリスト レポート

## 緩やかな回復基調が持続

### 県内景気天気図



凡例



前月比



### 県内景気の動向

**現状** 県内製造業の生産活動を鉱工業生産指数で見ると、窯業・土石製品や化学、金属製品などは低下したが、食料品やはん用・生産用・業務用機械、プラスチック製品などは上昇したため、前月比では3か月ぶりの上昇となった。ただ、生産状況の先行きをあらわす出荷指数と在庫指数(製品在庫)をみると、出荷は5か月連続で上昇したものの、製品在庫が10か月ぶりの上昇となり、今後の動向が注目される。

需要面では、百貨店・スーパーの販売額は前月に続きウエイトの高い飲食料品をはじめすべての品目で伸び悩んだため、全体では4か月連続で前年を下回り、民間設備投資の指標である民間非居住用建築物着工床面積は3業用とも前年を大きく下回り、水準は低く、工事費予定額も大幅のマイナスとなった。また、公共工事の請負金額は2か月連続で前年を下回った。しかし、ドラッグストアと家電大型専門店の販売額は引き続き前年を上回り堅調に推移しているのに加え、ホームセンターの販売額は8か月ぶり、コンビニエンスストアの販売額も2か月ぶりのともにプラスとなった。また、乗用車の新車登録台数は2車種合計で13か月連続のプラス、軽乗用車も3か月連続かつ大幅のプラス、トラックの新車登録台数も前月に続き前年を上回った。さらに、新設住宅着工戸数は持家が3か月ぶり、貸家も2か月連続のマイナスとなったが、分譲住宅が前月に続き大幅に前年を上回ったため、全体では2か

### 京滋の景気動向

京都府・滋賀県の景気は、緩やかな拡大に転じつつある。

個人消費は、緩やかに持ち直しつつある。設備投資は、緩やかに増加している。住宅投資は、幾分弱めの動きとなっている。公共投資は、横ば

月連続かつ大幅のプラスとなった。

このような中、雇用情勢をみると、新規求人倍率と有効求人倍率は引き続き高水準にあり、企業側からみた常用雇用指数と製造業の所定外労働時間指数はともに引き続き前年を上回り、改善傾向が続いている。

これらの状況をまとめると、製造業の生産活動は弱含みで推移しているものの、全体的には回復局面が続いているとみられる。需要面では一部で引き続き伸び悩みや一進一退の動きがみられる中、上向き傾向のものが増え、総じて堅調に推移していると考えられる。また、このような中で雇用情勢は引き続き改善傾向がみられる。したがって県内景気の現状は、緩やかな回復基調が持続していると考えられる。

**今後の動向** 県内製造業の生産活動については、為替相場の不透明な動きによる弱含みと一部での在庫調整による減産が懸念されるものの、内需関連業種を中心に底堅く、全体としては堅調な動きが持続するものと考えられる。需要面では、景気の先行き不透明感などの不安材料はあるが、全体的には底堅く推移するものと思われる。したがって今後の県内景気については、海外経済の不確実性や金融資本市場の変動の影響に加え、人手不足による業況悪化などが心配されるものの、しばらくは緩やかな回復基調が続くものと考えられる。

い圏内の動きとなっている。生産、輸出は、緩やかに増加している。労働需給は引き締まっており、雇用者所得も緩やかに増加している。

【日本銀行京都支店:「管内金融経済概況」(2017年6月8日発表)より】

しがぎん  
経済文化センター  
(産業・市場調査部)

### 「鉱工業生産指数」の前月比は

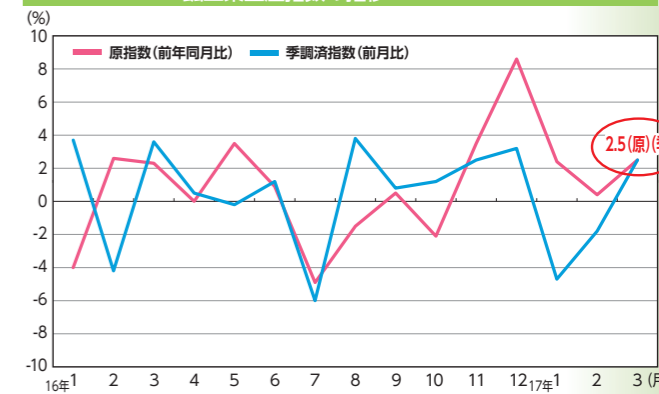
#### 3か月ぶりの上昇

2017年3月の県内製造業の生産状況を見ると、鉱工業生産指数(2010年=100)の「原指数」は116.1、前年同月比+2.5%で5か月連続の上昇となり、「季節調整済指数」は103.6、前月比+2.5%で3か月ぶりの上昇となった。季節調整済指数の3か月移動平均値(2月)は102.6、前月比-1.4%で、1月と2月の単月の低下が影響し、前月に続き低下した。今後の動向が注目される。大分類の業種別に季節調整済指数の水準をみると、「窯業・土石製品」(64.3)や「金属製品」(84.8)、「鉄鋼」(89.2)などは引き続き低水準にとどまっているものの、「食料品」(125.8)や「パルプ・紙・紙加工品」(115.8)、「化学」(113.2)、「プラスチック製品」(111.3)、「はん用・生産用・業務用機械」(110.2)などは高水準が続いている。前月に比べると、「窯業・土石製品」(前月比-7.2%)や「化学」(同-4.6%)、「金属製品」(同-2.8%)などは低下したが、「食料品」(同+19.1%)や「はん用・生産用・業務用機械」(同+9.7%)、「プラスチック製品」(同+5.5%)など

は上昇した。

生産状況の先行きをあらわす「出荷指数」と「在庫指数(製品在庫)」を前年比で見ると、出荷は5か月連続で上昇したものの(原指数118.0、前年同月比+0.3%)、在庫は10か月ぶりの上昇となった(同107.9、同+3.8%)。

鉱工業生産指数の推移(2010年=100)



### 「乗用車新車登録台数」は

#### 13か月連続のプラス

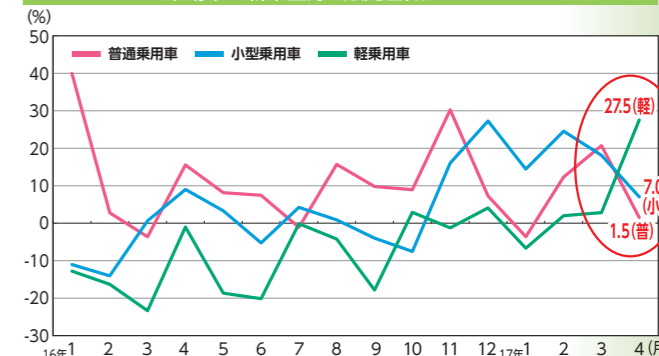
3月の「百貨店・スーパー販売額(全店ベース=店舗調整前、対象店舗数は95店舗)」は20,926百万円、前年比-3.2%と、4か月連続の減少となっている。品目別にみると、ウエイトの高い飲食料品が4か月連続のマイナス(同-2.5%)となっているのをはじめ、前月に続きすべてで前年を下回り、衣料品は9か月連続のマイナス(同-8.6%)、家電機器も4か月連続(同-12.9%)、身の回り品(同-6.9%)と家庭用品(同-6.3%)はともに2か月連続のマイナスとなった。また、「既存店ベース(=店舗調整後)」の売上高も前月に続きすべての品目でマイナスとなり、全体では4か月連続で前年を下回っている(同-4.5%)。

「家電大型専門店・ドラッグストア・ホームセンター販売額(全店ベース=店舗調整前)」によると、3月の「ドラッグストア」(177店舗)は5,121百万円、前年同月比+2.4%で、24か月連続のプラス、「家電大型専門店」(39店舗)も3,861百万円、同+6.7%で7か月連続のプラスとなり、ともに堅調に推移している。また、「ホームセンター」(62店舗)も3,014百万円、同+0.3%で、8か月ぶりのプラスとなった。昨年7月から都道府県別の前年同月伸び率が公表された「コ

ンビエンスストア販売額」(3月:560店舗)は、9,594百万円、同+2.6%で、2か月ぶりのプラスとなった。

4月の「乗用車新車登録台数(登録ナンバー別)」をみると、「小型乗用車(5ナンバー車)」が6か月連続の増加となっているのに加え(1,283台、前年同月比+7.0%)、「普通乗用車(3ナンバー車)」も3か月連続のプラスとなったため(1,395台、同+1.5%)、2車種合計は13か月連続のプラスとなっている(2,678台、同+4.1%)。また、「軽乗用車」は3か月連続かつ大幅のプラスとなった(1,852台、同+27.5%)。

乗用車の新車登録・販売台数(前年同月比)



### 「新設住宅着工戸数」は

#### 2か月連続かつ大幅のプラス

4月の「新設住宅着工戸数」は829戸、前年同月比+17.9%で、2か月連続かつ大幅のプラスとなった。利用関係別で見ると、「持家」は354戸、同-6.1%(大津市72戸など)で3か月ぶりのマイナスとなり、「貸家」も213戸、同-12.3%(大津市56戸、湖南市51戸など)で2か月連続のマイナスとなった。一方、「分譲住宅」は262戸、同+215.7%(大津市189戸など)で2か月連続かつ大幅のプラスとなった。分譲住宅の内訳をみると、「一戸建て」は4か月ぶりのプラス(99戸、前年差+16戸)、「分譲マンション」も前月に続き大幅プラスとなり、全体を押し上げた(163戸、同+163戸)。なお、「給与住宅」は6か月連続でなかった。

新設住宅着工戸数の推移(利用関係別)

